

主 文

本件各上告を棄却する。

理 由

被告人Aの弁護士豊秀夫の上告趣意は、事実誤認、単なる訴訟法違反、量刑不当の主張であつて適法な上告理由に当たらない。

被告人Bの弁護士太田雍也上告趣意第一点は、判例違反を主張するけれども、所論引用の各判例は、いずれも本件と事案を異にして不適切であり（原審が、その肯認する一審判決認定の事実関係の下で、被告人の所為を横領罪に当たるとした判断は正当である）、同第二点は、量刑不当の主張であつて、すべて適法な上告理由に当たらない。

また、記録を調べても、刑訴法四一條を適用すべきものとは認められない。

よつて、同法四一條、三八六條一項三号により裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四四年三月一四日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	草	鹿	浅	之	介
裁判官	城	戸	芳		彦
裁判官	色	川	幸	太	郎
裁判官	村	上	朝		一